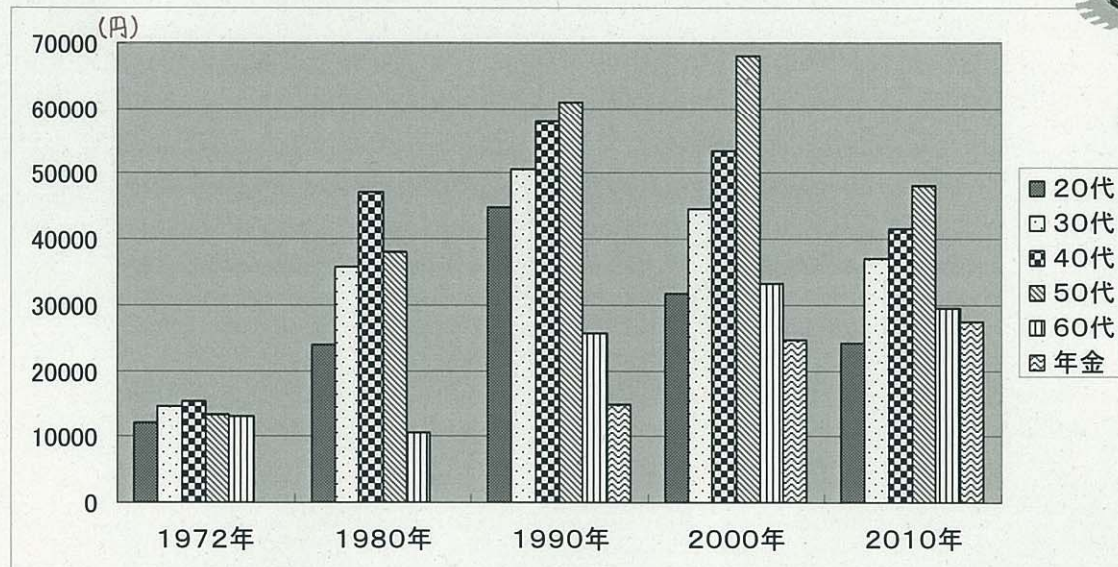


夫のこづかい・妻のこづかい

— 職業主婦費 40年の移り変わり —

<世代別40年間の職業主婦費>



※1972年と1980年の年金世代は集計をしていませんでした。

今月は“おこづかい”を特集しています。夫のこづかい・妻のこづかい、これは職業主婦費ですが、食費や教育費など気をつけている費目と違い、職業主婦費は何となく気にならないで出ているお金です。コープの「家計簿活動」も今年で40年が経過しました。この間、生活パターンがいろいろ変わりました。“おこづかい”もどのように変わったのか40年を振り返ってみました。

①職業主婦費は社会を反映しています。

40年前の1972年では世代別に金額の差はありませんでしたが、1980年からのバブル経済により金額が増加し、特に40・50代の金額が増えています。しかし、バブル経済の破綻と2008年秋のリーマンショックによる景気後退で、2010年は大幅に減りましたが、年金世代だけは増えています。

②消費支出の中で職業主婦費は常にベスト5に入っています。

消費支出の中での割合は平均で20代は10%、30代は13.5%、40代は13%、50代は13.5%、60代は9%、年金は8%の割合で、40年間ではあまり変わっていません。しかし、消費支出のベスト5で見ると、住居費・食費・教育費に続き、どの年・どの世代も4・5位に入っています。削ることが出来ない費目なのでしょうか？

☆職業主婦費とは？もう一度復習をしてみましょう！

夫・妻の小遣い・単身赴任に係る費用・通勤定期代など。(孫へのおこづかや学生ではない子どもへの援助は交際費です。また、学生の子どもへのおこづかいは教育費です。)